

# 男女共同参画推進施設デュオよこすか 「女性のための相談室」における相談事業【横須賀市】

個別事業費	757 千円
交付金額	364 千円

## 地域の実情と課題

デュオよこすか「女性のための相談室」への相談件数は、コロナ禍以降年々増加しており、不安、生きづらさ、経済的困難、家庭内問題、精神的ストレスなどを抱える女性が数多くいることが窺え、専門的な支援を必要とするケースも増加している。本市でも女性の相談やサポートを行っているが、DV等の相談先として「市役所」の認知度は36.7%と低く、未だ多くの人に相談先として認識されていない。このため、市役所の相談先を認識していない人でも必要な支援につながるよう、「女性のための相談室」の広範な認知度向上と、専門機関への円滑な支援接続を強化する取り組みが求められている。

## 事業の特徴

通常、相談時間は平日昼間のみであるため、相談したくても利用できない層に対応すべく、年間6回、相談時間を夜間まで延長した。延長の実施時期は、「男女共同参画週間（6月）」「女性に対する暴力をなくす運動（11月）」「国際女性デー（3月）」とし、男女共同参画やジェンダー平等に関する機運の醸成につなげた。

さらに、夜間対応経験のある団体や、外国人相談の関係機関とも連携し、緊急性の高い相談への対処方法や連絡先等を共有することで、対応を強化した。また相談員のスキルアップを目的として、相談支援専門員や精神保健福祉士による研修を実施し、対応力の向上に取り組んだ。相談室の周知にあたっては、カード等によるPRに加え、NPO団体と連携した生理用品配布の取組を通じた周知を行った。また、福祉イベントにおいて気軽におしゃべりをする場を設け、悩みや疑問を共有する機会をつくりながら、相談室の周知に努めた。

## 事業の効果

- ・夜間相談実施の広報により、周知効果とともに、必要な時に頼れる安心感にもつながったと感じている。
- ・関係機関との連携を強化したことにより連絡調整が円滑となり、ケース毎の案件を共有し適切な支援先へ案内できた。
- ・相談員の研修体制を強化した結果、「十分な成長の機会を与えられている」といった前向きな気づきが相談員間で共有され、これにより、業務への意欲や主体性が高まり、相談者に寄り添う姿勢や相談業務の質の向上につながった。

## 目的・目標

関係機関が連携しながら、不安や生きづらさを抱える女性の相談、居場所、情報提供のサポートを行い、それぞれの状況に寄り添った、適切な支援につながる取り組みを行う。

- 女性のための相談室」の相談件数【目標】1,500件【実績】1,575件
- 夜間相談の実施【目標】6回【実績】6回
- 関係機関との連携会議実施【目標】4回【実績】6回
- 相談員の研修実施【目標】14回【実績】18回

## 連携団体

- ・市内NPO団体（ひとり親家庭支援、こころの健康、夜間相談等に取り組む団体）
- ・社会福祉協議会

## 今後の課題

- ・夜間の相談電話は件数が少なかったことから、「通常の相談受付時間以外にも実施している」ことへの認知度の向上が課題と考えている。
- ・初めての夜間相談実施に対応すべく、相談員に対する研修や情報共有などが中心だったため、次年度以降は夜間相談以外にも、困難を抱える女性に対して直接的にアプローチできる取り組みを実施する。

## 男女共同参画推進施設デュオよこすか 「女性のための相談室」における相談事業

①相談時間の拡充(年6回の夜間相談) →必要な時に頼れる安心感

通常: 9:00~16:00

夜間相談時: 9:00~19:00(6月、11月、3月の各月2回)

②関係機関との連携(情報共有) →スムーズな連携による確実な支援

DV相談、ひとり親支援、犯罪被害者支援、スクールソーシャルワーカー、外国人相談などの専門窓口との連携によりスムーズで適切な支援につなげた。

③相談員の研修実施(スキルアップ) →相談員の意欲・主体性の高まり

夜間相談や心の健康に取り組むNPO団体との研修及び情報交換を行い、不安や生きづらさを抱える女性に対しての相談支援に必要な心構えや知識、対応方法を学んだ。

④相談室の周知(カード・イベント) →気軽に相談できる場のPR

カード等を作成し、市関連施設や相談窓口を設置したほか、ひとり親支援のNPO団体と連携した生理用品の配布や、福祉イベントにて気軽に“おしゃべり”ができるコーナーにおいて周知に努めた。

相談体制の充実

相談者に  
寄り添った  
適切な支援

相談室の  
質の向上

